

中高の学びをつなぐための課題と連携の在り方 ～高等学校の視点から～

他校種との学びの接続を考えたとき、中学校と高校の間には大きな違いがあるように感じます。高校生の発言から読み取れる学習環境上の問題点や生徒の立場に立った接続上の課題を整理し、中高の学びをスムーズにつなげるための方策を考えてみましたので紹介します。

1 高校生の気になる発言から見てくるもの

【高校生の気になる発言】

「勉強の仕方が分かりません。どうやって勉強したら良いですか？」

目的をもった主体的な学習、自学自習の習慣が身に付いていない。与えられた課題による学習、塾等の影響。

「課題がまだ終わっていません。もう少し待って下さい。」

部活動や通学時間等のせいにする傾向が強い。先を見据えた計画的な学習が苦手。やらなくても何とかするという意識。

「授業の進度が速くてついて行けません。」

説明を聞きながら板書を写すことに慣れていない。
※進度が速い学校の数学は教科書2.5冊/年ペース

「今日もノートに書くんですか？プリント学習にしてください。」

プリント学習（空欄に書き込む→ファイリング）に慣れ過ぎていて。自分のノートを活用した自学自習ができない。

「もっと簡単な解法はないですか？面倒な計算したくないです。」

安易に効率性を求める風潮。苦労した先に得られる学習内容の本質的な理解の体験が足りない。

「毎日の家庭学習時間ですか…？え～と、0時間です。」

家庭学習をしたことによる授業内での成功体験の不足。家庭に学習するスペースがない生徒も…。

合格発表後の学習課題を期限までに提出できない生徒が見られます。中には、意図的にページを飛ばして提出する生徒も…。

家庭学習と授業をリンクさせる工夫が必要。

2 生徒から見た中高接続上の段差

これらの段差に対し、生徒が**困り感**を感じていれば、その段差を低くするための**中・高双方の配慮**が必要です。

中学校	段差	高等学校
○ 板書事項をノートに写す時間を確保してもらえる		○ 先生の話聞きながら板書事項をノートに写す場面が多い
○ 具体物の提示、情報機器や教具を用いて学習内容の理解を助けてもらえる		○ 黒板やプリント（平面上）での図示による説明が多い
○ ペア学習やグループ活動など、生徒同士の話し合い・活動の場がある		○ 先生による講義形式の授業が多い
○ 授業の中でも課題解決の時間を十分に与えられる		○ 家庭での予習、事前の準備が求められることが多い
○ 個別指導は場所を指定され、複数生徒と一緒に参加することが多い（教師に呼ばれることが多い）		○ 職員室でのマンツーマンでの個別指導が頻繁に行われる（自分が教師に申し出ることが多い）

家でどんな勉強したらいいんだろう…。一人じゃ勉強できない～！

予習をしないとついていけない…。

週末課題が終わらない！
普段からもっと計画的にやっておけば良かった…。

高校の授業の進度は速いなあ。先生の説明を聞きながらノートをとるのも大変…。

質問したいけど、こんなこと聞いたら叱られるかなあ…。



この他にもこんな変化があります。
・授業の進度 ・板書の字の大きさ
・課題の出し方（日々題・週末課題？、学年主導・教科主導？）
・問題集の形式（書き込み・問題のみ？）
・辞書（紙・電子？） …etc

3 中高それぞれの校種における授業改善に向けての課題

〈中学校〉

- ・教師主導の授業で、生徒の考える（伸びる）時間（機会）を奪っていないか
- ・素材を十分に生かした授業構想か
- ・授業のリズム、テンポは適切か
- ・退屈している生徒はいないか
- ・効果の伴わないペア学習、グループ学習をしていないか

〈共通〉

- ・生徒の思考に沿った授業をしているか
- ・単位時間の授業のねらいとまとめの整合性は図られているか

〈高校〉

- ・教師の一方向的な説明に終始していないか
- ・教室全体の雰囲気と生徒の表情を見て授業をしているか
- ・生徒に守らせたいことを共通実践できているか（例 寝ている生徒をそのままにしているか）
- ・自分の授業の振り返りをせず、中学校のせい、勉強しない生徒のせいにしていないか

これらの中高の学びの段差や校種ごとの授業実践上の諸課題により、自己肯定感が低いまま高校に入学してくる生徒も多くなっています。高校では、『**学校設定科目**』(※)に小・中学校の学習内容の振り返りを設定し、「分からなかったものが分かる喜び」を味わうこと、つまり“学び直し”を通して、生徒の困り感を解消し高校の学習内容につなげていく取組を行っている学校もあります。

(※) ... 学校や生徒の実態等に応じて、必要がある場合には、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るようすることを規定しており、その工夫の一つとして、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図ることを目標とした学校設定科目等を履修させた後に、必修教科・科目を履修させるようにすること(総則第5款の3の(3)のウ)が示されている。このため、こうしたことも踏まえながら、学校や生徒の実態等に応じた適切な学校設定教科・科目を開設することが重要である...

(高等学校学習指導要領解説 総則編p36)

4 高等学校における『学校設定科目』を活用した具体的な学び直しの取組例

- (1) 入学時の基礎学力の把握 … 新入生への課題テスト、外部の学力診断テスト等の活用の実施
 - 個及び全体の学習状況の分析、個々の誤答分析。生徒のつまずきは教師のつまずきであることを認識し、生徒目線で指導方針を立てる。
 - 分析結果を年間指導計画に反映させる。
- (2) 授業における課題プリントや定期考査等での基礎・基本問題の反復練習
 - ある程度できるようになったら、時間制限を設けたり、問題数を増やしたりして、より高いレベルの課題に取り組もうとする意欲を喚起 → 課題への集中力の高まり
 - 小テストの形式の工夫 … 良問をA5版表裏、10分程度を反復練習
- (3) 1学年中間考査の重要性
 - 「やったらできた！」(壁を乗り越える)という経験 → 学びの軌道へ
- (4) 課題テスト、定期考査等の間違えた部分の徹底的な復習
 - … 「ミスをしなさい」から「なぜ間違えたのか」へ
- (5) 自校の生徒の実態に応じた学び直し教材の作成
- (6) 生徒個々の学習カルテの作成 … 前の校種の学習内容の到達度を把握できるもの
- (7) 朝学習の実施
- (8) 「校内検定」や「〇〇コンテスト」の実施
 - 等級に難易度分けした国数英の課題やコンテスト形式の課題に定期的に挑戦させ、その生徒の学力に応じた達成感と成績の伸長度を実感させる。
- (9) その他
 - 職員室での個別指導 … いろいろな先生からの声かけが生徒にとって何よりの励まし
 - 力のある生徒に対する各教科によるチーム支援、可能性の引き出し
 - … 核になる生徒がいると集団の雰囲気も変わる

5 中高の学びの段差を低くするための中学校における指導の工夫

- (1) 生徒の発達段階に応じて、教師や友人の話を聞きながら板書事項をノートにまとめる授業形態を意図的に取り入れる。
- (2) 一定量のまとまった課題を、自分で立てた学習計画に基づいて実践し、やり遂げたという成功体験を味わうことのできる学習場を設定する。達成できなかった生徒には、教科担当者による学習相談を実施し、個別指導で対応する。家庭と連携しながら物事を最後までやり通すことの大切さを伝える。
- (3) 自分の力で解決できないような疑問点や学習内容については、授業終了後や昼休み、放課後等を利用して自ら教師に質問するよう促すとともに、それが可能な校内の学習環境を整える。
- (4) ただ課題を与えていくのではなく、生徒自らが課題を設定した探究的な学習の場面を取り入れる。
- (5) 生徒自身に自分が集中できる環境(場所)を見付けさせ、乗り越えるべき課題に一人で向き合う習慣を身に付けさせる。

6 中高連携の在り方

- 生徒を**送り出す責任、受け入れた責任に使命感**をもち、困っている生徒の立場になって具体的方策を考えることが出発点になります。
- 隣接する中学校・高校間での取組から始め、個々の生徒の進路選択や地域全体の学力の向上、さらには**双方の教員の指導力向上に結び付くよう連携の内容を工夫**する必要があります。
- 中高の教科書の内容を系統的に理解し、**互いの校種を意識した意図的な授業展開**を取り入れましょう。
 - 中： 「高校では～なるよ」「この続きは高校で」「なぜこうなるのかは高校で詳しくやります」
 - 高： 「中学では～だったけど、高校では…」 「中学生の解法でも考えてみよう」

「なぜこのくらいのが分からないの？小(中)学校でやってきたでしょ！」

思わず心の中で叫びたくなる場面もあることでしょう。しかし、今私達の目の前にいる子どもたちは、『昨日は分からなかったけど、今日の先生の説明を聞けば分かるかも…』と期待しながら登校してきたのかもしれない。前の校種での子どもたちの学びを理解し、次の校種(ステージ)で活躍する子どもの姿を思い描きながら、子どもたちの「学びたい」「知りたい」という期待に応えられる質の高い授業をつくりあげましょう。